

（人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開）

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 動画データを用いたパーキンソン病とその関連疾患におけるすくみ足の自動検出システムの開発

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター病院, 身体リハビリテーション部, 近藤夕騎

【本研究の目的及び意義】

パーキンソン病とその関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）では、進行に伴って歩行中に“すくみ足”の症状が発現することがあります。すくみ足を定量的に評価することは、薬物治療やリハビリテーション治療、外科的治療の効果判定をする際に不可欠です。しかし、すくみ足を定量化する場合、現状では、歩行場面をビデオカメラで撮影し、その動画データを熟練した評価者によって、歩行課題中におけるすくみ足が発現している時間を、ストップウォッチを使用して算出するため時間を要します。

そこで本研究では、人工知能を用いて、すくみ足を動画データから簡便に検出できるシステムを開発することを目的とします。すくみ足の定量化を簡便にできることで、脳神経内科医や脳外科医、リハビリテーション関連職の業務負荷を軽減することに寄与できる可能性があります。

本研究に関して使用する動画データは、匿名化（モザイク処理）を行なったのち、共同研究者である筑波大学の鈴木健嗣氏に提供します。なお、モザイク処理を行っていない動画データを共同研究機関に提供する場合は、研究対象者に対し、個別に説明同意を取得します。パスワード付きのUSBもしくはHDDでデータを手渡しで行い、データは共同研究先のオフラインPCで保存されます。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

国立精神・神経医療研究センター病院身体リハビリテーション部において、西暦2012年4月1日から西暦2024年3月1日まで外来または入院でリハビリテーションを受診したパーキンソン病ならびにその関連疾患の方。

利用する試料・情報等

試料：歩行の動画データ（日常臨床の一環として実施していた評価結果を研究に利用する）

研究期間

2021年7月2日から2024年3月31日まで

【共同研究機関】

筑波大学 研究責任者 鈴木 健嗣（研究代表者）

筑波大学 研究責任者 門根 秀樹

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 身体リハビリテーション部 氏名 近藤夕騎

電話番号

e-mail:kondo1218※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)